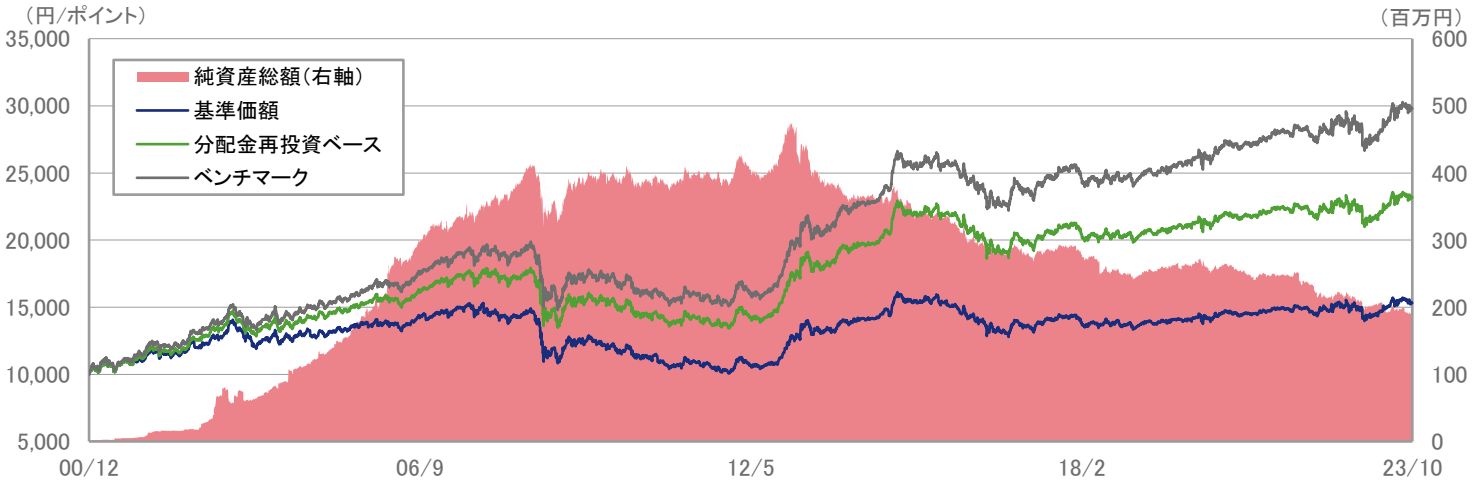


■ **基準価額・純資産総額の設定来推移**



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ **設定来の運用実績**

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (FTSE世界国債インデックス(除く 日本、当社円換算ベース))		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	23,181	-	136,724	-	-
過去1ヵ月	23,221	-0.17	136,811	-0.06	-0.11
過去3ヵ月	22,987	0.85	135,228	1.11	-0.26
過去6ヵ月	22,120	4.80	129,371	5.68	-0.89
過去1年	23,047	0.58	134,356	1.76	-1.18
過去3年	21,557	7.53	122,728	11.40	-3.87
設定日来	10,000	131.81	45,871	198.06	-66.25

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ **基準価額と純資産総額**

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	15,437	15,463	-26
純資産総額 (百万円)	191	191	-0

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	16,117	2014年12月8日
設定来安値	10,000	2000年12月22日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ **運用資産構成比率**

ファンド	比率(%)
外国債券	95.9
短期資産等	4.1
合計	100.0

※1 比率はベビーファンドの実質組入比率(純資産総額比)です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ **分配実績**

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2023/10/16	130
2022/10/17	0
2021/10/18	0
2020/10/16	40
2019/10/16	100
2018/10/16	110
設定来合計	5,389

※ 1万口当たりの実績です。

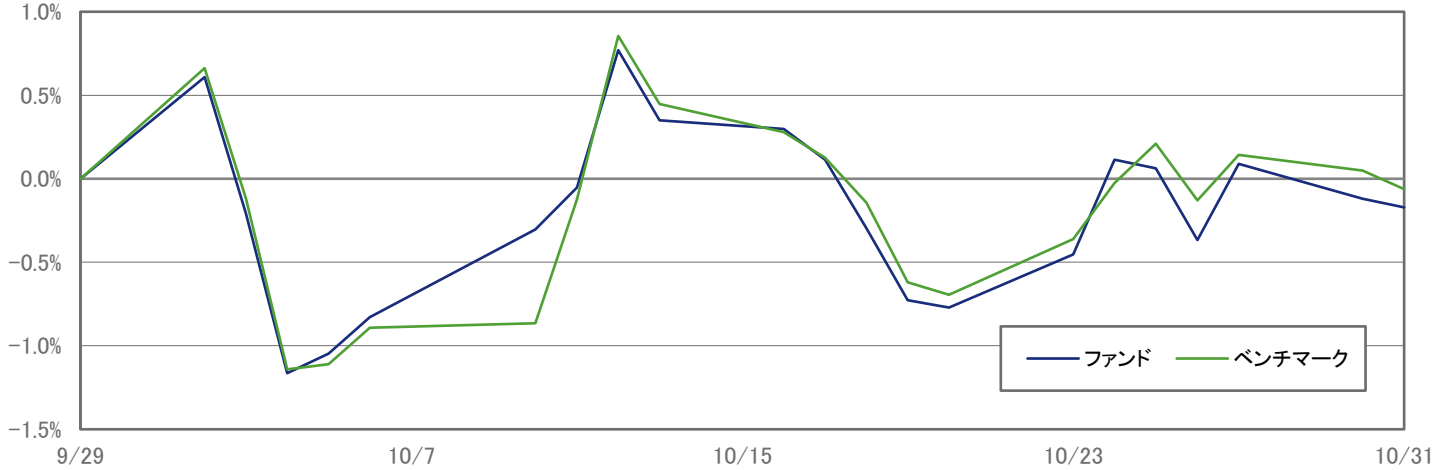
■ **運用概況**

当月末の基準価額(月中分配金込み)は、15,437円(前月比-26円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は-0.17%となり、ベンチマークの月間騰落率は-0.06%となりました。

<運用担当者のコメント>

■ 10月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

<参考/基準価額の要因分解>

	(単位:円)	(単位:%)
	基準価額	月次騰落率
2023年10月31日	15,437	-
2023年9月29日	15,463	-
増減	-26	-0.17
債券要因	0	0.00
キャピタル	-38	-0.25
うち現物	(-38)	(-0.25)
うち先物	(-)	(-)
インカム	38	0.25
為替要因	-8	-0.05
小計	-8	-0.05
その他要因	-18	-0.12
要因合計	-26	-0.17

※ 上記の要因分解は、主要項目別に寄与度を概算した参考値です。
※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

市場動向

米国金利は、中東情勢の緊迫化や複数の米連邦準備制度理事会(以下「FRB」という)高官が追加利上げに慎重な見解を示した場面では長期金利は水準を切り下げた一方、物価・労働市場の底堅さを示す経済指標に加え、国債入札の低調な結果や米国債増発懸念を背景とする国債需給の悪化が意識されて上昇しました。また、米国10年国債利回りの5%到達を手掛かりとした短期売買の持ち高調整から月末にかけて金利低下となりましたが、調整一巡後は5%を下回る水準で一進一退となりました。独国金利は、欧州中央銀行(以下「ECB」という)の早期利下げへの否定的な姿勢や米長期金利の上昇は金利上昇要因となったものの、10月ECB理事会を受けた利上げ打ち止め観測の強まりや欧州域内景気への先行き懸念、中東情勢の緊迫化を受けて低下しました。なお、インフレ見通しを巡る不透明感の根強さから金利先高感も拭えず高位推移となりました。為替については、ドルは、日本当局による円買い介入実施への警戒感や複数のFRB高官が追加利上げに慎重な姿勢を示したことが上値を抑えたものの、高水準の日米金利格差や日銀による政策正常化観測が意識されたことから、横ばい圏で推移しました。ユーロは、欧州発の金融政策や経済指標に関わる材料が決め手に欠ける中、ドル/円相場が膠着感を強めたことに対し、動意に乏しいながらもユーロ高・ドル安となったことを背景に、円に対してユーロ高となりました。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

ファンド・レビュー

10月のファンドのパフォーマンスは前月比-0.17%、ベンチマークのパフォーマンスは前月比-0.06%、ファンドのベンチマークに対する相対パフォーマンスは-0.11%となりました。

当ファンドが組入れているマザーファンド(ドルベース)の10月のパフォーマンスをベンチマークと基準を揃えて比較すると、ファンドのパフォーマンスは以下の要因から、ベンチマークを下回りました。

- (一)デレーション戦略は小幅なマイナス寄与となりました。米国国債の中期ゾーンをオーバーウェイトとしたことは、堅調な経済指標を受けた金融引き締め長期化観測から米国国債利回りが上昇したことを背景に、マイナスに寄与しました。
- (一)通貨戦略は小幅なマイナス寄与となりました。豪ドルをオーバーウェイトとしたことは、中東情勢の緊迫化や堅調な米経済指標を受けた金融引き締め長期化観測から米ドルが主要通貨に対して上昇したことを背景に、マイナスに寄与しました。
- (一)国別配分戦略は小幅なマイナス寄与となりました。英国・独国の30年国債および豪州の10年国債に対して豪州の30年国債をオーバーウェイトとしたことは、英国や独国の超長期金利が上昇する中で、豪州において根強いインフレや住宅価格の上昇を背景に金利が大幅に上昇、イールドカーブがスティープ化(長短金利差が拡大)したこと、マイナスに寄与しました。
- (0)イールドカーブ戦略の寄与は中立となりました。
- (0)信用戦略の寄与は中立となりました。

■ 今後の市場見通しと運用方針

■構造的な高インフレ、緩やかな景気減速、各国中銀の一段のハド派姿勢を背景に、主要国のイールドカーブはスティープ化すると見えています。短期金利は景気減速に連動し、長期金利は根強いインフレ圧力や債券の需給環境の悪化に反応すると想定しますが、経済成長の再加速やインフレ率の更なる上昇はこの見通しのリスクです。また、茲許の急速かつ大幅な利上げの影響によって、金融環境の更なる引き締めが進み、金融不安につながるリスクが高まっています。リスクが顕在化した場合には、資産クラスとしての債券のトータルリターンはプラスとなる可能性があります。日銀による今回の政策修正は、金融引き締めではなく、バランスシート拡大が加速するリスクを回避するための調整であり、金利変動が急激で不適切と判断されれば介入の可能性があります。金融政策は依然として緩和度合いが強く、政府は更なる財政刺激策を行う見込みです。大局的に見ると、変更は微調整にとどまっておき、日本の金融政策のリフレ色を弱めるものではありません。新興国通貨は引き続き、過去対比で割高な水準と見えています。多くの新興國中銀が利下げを開始する一方、先進國中銀は当面利下げを見送る可能性が高く、新興国と米国の金利差は縮小する見込みです。クレジット市場のファンダメンタルズ(経済の基礎的要因)は引き続き良好で、当面の間不安定化する懸念は低いと見えています。クレジットスプレッド(国債と投資適格社債の利回り較差)は縮小しており、引き続き銘柄選択に注力するとともに、魅力的な利回りを有する新発債への投資を検討します。こうした状況の中、デレーション戦略ではアンダーウェイトから中立寄りに変更し、イールドカーブがスティープ化に向かうとの想定から、米国、ユーロ圏、英国のイールドカーブのスティープ化を見越したポジション(短中期ゾーンのオーバーウェイト、長期ゾーンのアンダーウェイト)を取る方針です。通貨戦略では、新興国通貨および英ポンドのアンダーウェイトを継続します。一部の先進国通貨に対して米ドルをアンダーウェイトとします。

■債券:

【北米】景気や金融環境が一段と悪化し、失業率の上昇に加え、コア・インフレ率が3%まで持続的に低下すれば、少なくとも短期的には、FRBの見込む米国経済のソフトランディング(経済の軟着陸)が実現する可能性があります。短期金利は景気減速に連動する一方で、長期金利は根強いインフレ圧力や米国債の需給環境の見直し悪化に反応する見込みです。景気が持ちこたえる場合には、長期金利は大幅に上昇するリスクがあります。一方で、茲許の急速かつ大幅な利上げの影響によって、金融環境の更なる引き締めが進み、金融不安につながるリスクが高まっています。リスクが顕在化した場合には、資産クラスとしての債券のトータルリターンはプラスになる可能性があります。こうした中、米国のイールドカーブのスティープ化を見越したポジションを取る方針です。

【ユーロ圏】ここ数四半期のユーロ圏の景気減速には主に2つの要因があり、1つは実質所得の上昇にも関わらず家計消費が抑制されていることです。2つ目は、グローバルな貿易低迷や複数の構造問題(貿易における対中依存の高さ、エネルギーコストの上昇、中国によるEVの競争激化など)を背景とした産業サイクルの停滞です。景気減速を示す経済指標を受けて、ECBは利上げサイクルの終了を示唆したものの、インフレ率を目標の2%まで持続的に戻すには不十分と見えています。市場は既に来年の利下げの可能性を想定しています。明確な好材料がない中、実質所得の上昇を受けてもなお家計の慎重な消費行動が続いた場合や製造業が一段と悪化した場合、或いはクレジットスプレッドが拡大し、金融環境が継続的に引き締まった場合には、利下げは可能と考えます。しかしながら、利下げシナリオを覆す材料は依然として多く残っています。第一に、ユーロ圏の粘着的なインフレやサービス価格の上昇から物価の上振れリスクが示唆される点です。第二に、金融政策は抑制的であるのに対し、財政政策は依然緩和的である点です。第三に、消費者は茲許の実質所得の上昇に反応しない一方、家計のバランスシートは過去対比で最も健全である点です。こうした中、ユーロ圏のイールドカーブのスティープ化を見越したポジションを継続する方針です。

【英国】イングランド銀行(以下「BOE」という)は利下げ路線を打ち出しているものの、緩やかな景気減速によってインフレ率が目標を十分に下回るとは見ておらず、英国は先進7カ国の中で高インフレと経済成長のトレードオフが最も悪化する見込みです。英国は多額かつ恒常的な経常赤字を抱えており、財源確保にあたってBOEおよび海外投資家への依存が高まっています。一方、昨年に英国年金の債務運動型運用(LDI)戦略を巡って英国国債の暴落が発生して以降、海外投資家の英国債保有率が低下し始めていることに加え、世界的に流動性が低下傾向にあることから、海外資本を呼び込むことはより困難になっています。こうした中、英国のイールドカーブのスティープ化を見越したポジションを取る方針です。

■通貨:

【米ドル】米ドルは大半の先進国通貨に対して割高である一方、一部の新興国通貨に対しては過去対比割安です。こうした中、米ドルは強弱交錯した見方をしつつ、足許ではアンダーウェイトとする方針です。

【ユーロ】中国経済の安定化は中国と緊密な貿易関係にあるユーロの下支えになると見えています。こうした中、ユーロはポジティブな見方から機動的にオーバーウェイトとする方針です。

【英ポンド】英国経済の長期的な成長見通しは困難が続くと見えています。世界的に流動性が低下する中、BOEの不十分なインフレ対応や歴史的に突出した英国の財政赤字が英ポンドの重石となる見込みです。こうした中、英ポンドについてはアンダーウェイトとする方針です。

※運用担当者のコメントは10月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

運用担当者のコメントは、受益者向けに投資信託の運用状況を開示するため、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(以下、ウエリントン社)から提供された情報を元に、農林中金全共連アセットマネジメントが作成したものです。ウエリントン社からの情報は、海外市場の月末を基準として提供されており、ファンドの評価基準日とは一日異なります。また、上記コメントは、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

■ 後掲の「主なリスクと費用」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

<マザーファンドの運用状況>

■ 国別組入比率とデュレーション

国名	① 組入比率 (%)		② 修正デュレーション(年)	
	ファンド*	ベンチマーク	ファンド*	ベンチマーク
米国	51.3	48.3	5.70	5.66
カナダ	4.6	2.0	4.26	6.50
イギリス	3.4	4.9	11.97	9.34
ユーロ	26.6	32.5	7.34	6.87
ドイツ	3.5	6.4	6.12	7.05
フランス	7.7	8.3	7.12	6.98
アイルランド	0.5	0.6	10.20	7.49
イタリア	6.0	7.4	7.28	6.00
オーストリア	0.8	1.2	11.14	8.08
オランダ	2.1	1.5	7.75	7.97
スペイン	4.2	4.9	7.43	6.46
フィンランド	0.4	0.5	9.91	7.31
ベルギー	1.5	1.7	9.79	8.45
ポルトガル	-	-	-	-
スウェーデン	0.2	0.2	8.80	5.47
ポーランド	0.4	0.5	4.88	3.93
デンマーク	0.4	0.3	7.56	7.49
ノルウェー	0.3	0.2	6.50	5.14
オーストラリア	1.7	1.4	8.34	6.31
シンガポール	0.6	0.4	6.40	8.15
マレーシア	-	0.5	-	7.45
メキシコ	1.2	0.9	4.47	4.78
イスラエル	0.1	0.3	10.12	5.59
中国	5.6	7.4	6.70	5.66
ニュージーランド	0.6	0.2	8.89	6.12
その他の国	0.5	-	1.05	-
債券合計	97.2	100.0	6.40	6.27
その他	2.8	-	-	-
合計	100.0	100.0	-	-

※ 比率は純資産総額対比です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	通貨	クーポン(%)	償還日	組入比率(%)	分類
1	T-NOTE 3.625 280331	アメリカ	米ドル	3.625	2028/3/31	13.5	国債
2	T-NOTE 0.75 260831	アメリカ	米ドル	0.750	2026/8/31	6.9	国債
3	T-NOTE 3.875 271130	アメリカ	米ドル	3.875	2027/11/30	4.6	国債
4	T-NOTE 3.875 330815	アメリカ	米ドル	3.875	2033/8/15	3.9	国債
5	T-BOND 1.75 410815	アメリカ	米ドル	1.750	2041/8/15	3.3	国債
6	T-BOND 2.0 510815	アメリカ	米ドル	2.000	2051/8/15	3.3	国債
7	CGB 2.4 280715	中国	中国人民幣元	2.400	2028/7/15	2.5	国債
8	BTPS 2.45 330901	イタリア	ユーロ	2.450	2033/9/1	2.5	国債
9	OAT 2.75 290225	フランス	ユーロ	2.750	2029/2/25	2.2	国債
10	T-NOTE 2.625 270531	アメリカ	米ドル	2.625	2027/5/31	1.9	国債

※ 比率は外国債券現物対比です。

組入銘柄数: 142銘柄

■ 通貨別組入比率

(%)

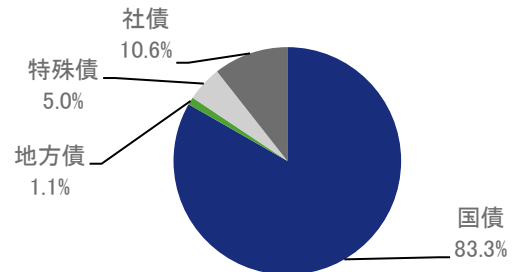
通貨	ファンド*	ベンチマーク	差
米ドル	47.4	48.3	-0.8
ユーロ	32.8	32.5	0.3
英ポンド	4.5	4.9	-0.4
カナダドル	2.1	2.0	0.2
その他(円除く)	12.1	12.3	-0.2
合計	99.0	100.0	-1.0

※ 比率は純資産総額対比です。

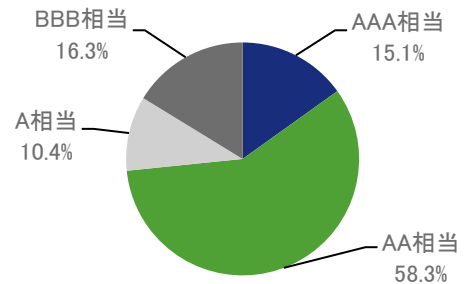
■ 保有債券の属性

	ファンド*	ベンチマーク	差
平均利回り(%)	4.52	4.33	0.19
平均クーポン(%)	2.77	2.33	0.43
平均残存期間(年)	9.33	9.08	0.25
修正デュレーション(年)	6.40	6.27	0.14

■ セクター別組入比率



■ 格付別組入比率



※1 比率は外国債券現物対比です。

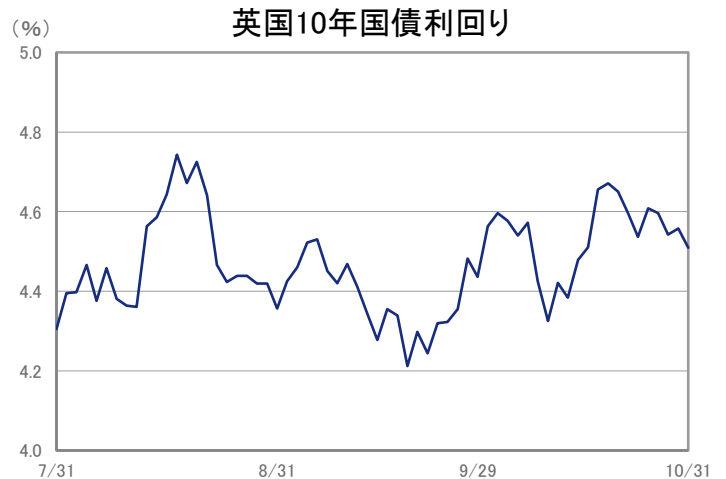
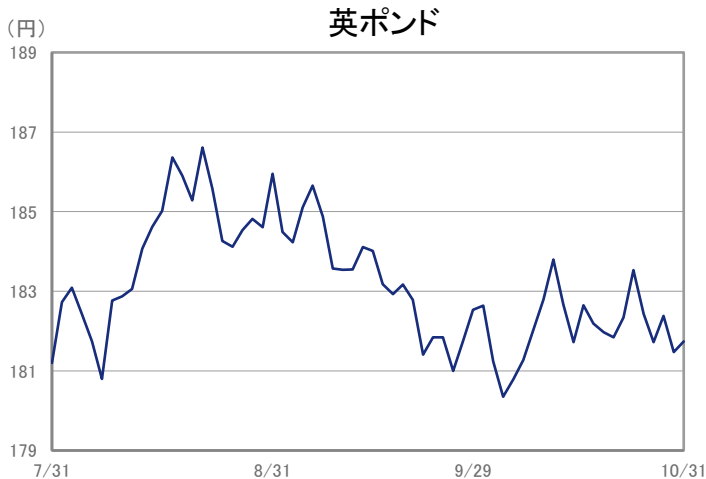
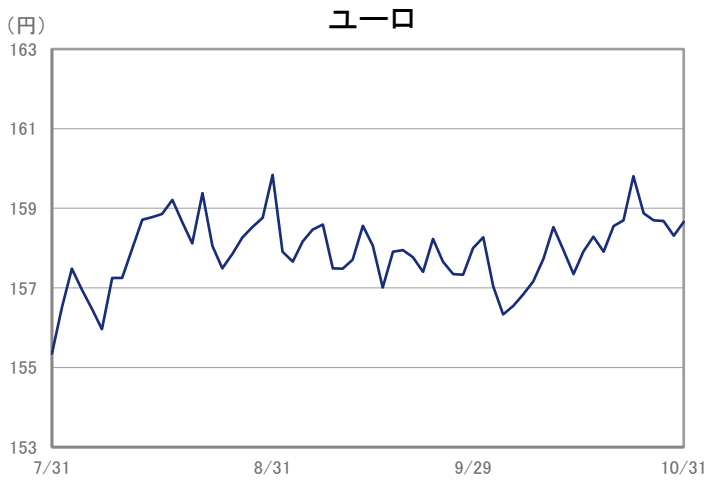
※2 格付けは、原則としてS&P社、Moody's社のうち低位のものを採用しています。

<参考> 市場動向(マーケット指標の推移)

為替相場



債券市場



当ファンドは、公社債などの値動きを生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。従って元金が保証されるものではありません。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。当資料は当社が信頼できると判断したデータにより作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。投資信託は貯金(預金)保険制度の対象ではありません。当資料は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

商品の特色

- 当ファンドは、JA海外債券マザーファンドを主要投資対象とし、マザーファンドを通じて、日本を除く世界各国の公社債を中心に投資を行います。
- マザーファンドの運用にあたっては、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッドに外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限を委託します。
- 当社が円ベースに換算したFTSE世界国債インデックス(除く日本)をベンチマークとし、ファンダメンタルズ分析と計量分析を併用した手法により運用を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。
- ポートフォリオ全体の平均格付(保有している有価証券に係る信用格付けを加重平均したもの)は、原則としてA格以上を維持することとします。外貨建資産については、原則として対円為替ヘッジは行いません。

■ お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から、信託財産留保額を差し引いた価額となります。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	原則として午後3時までとなります。(ただし、受付時間は販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。)
申込受付不可日	ニューヨーク証券取引所の休場日またはニューヨークの銀行の休業日には、購入・換金の申込受付を行いません。(詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。)
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:2000年12月22日)
繰上償還	受益権の総口数が5億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年10月16日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年10月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年10月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

※確定拠出年金制度に基づく申込の場合は、取扱いが一部異なる場合があります。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- : ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー、ウエリントン・マネージメント香港リミテッドおよびウエリントン・マネージメント・インターナショナル・リミテッド(投資顧問会社)
当ファンドの直接の関係法人ではありませんが、委託会社よりJA海外債券マザーファンドにおける外貨建資産の運用および為替取引の指図に関する権限の委託を受けて投資判断・発注等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 最終ページをご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

主なリスクと費用

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主に日本を除く世界各国の公社債を実質的な投資対象としますので、海外金利の上昇による組入公社債の価格の下落や、組入公社債の発行会社等の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資を行いますので、為替の変動により損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「金利変動リスク」「為替変動リスク」「信用リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	<p><通常の申込> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額に、販売会社が個別に定める手数料率を乗じた額です。ご購入時の手数料率の上限は1.65%(税抜1.5%)です。</p> <p><確定拠出年金制度に基づく申込> 無手数料</p>
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.20%を乗じた額を、換金時にご負担いただきます。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年1.32%(税抜1.20%)を乗じた額を計上します。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	<p>監査費用は、毎日、純資産総額に年0.0033%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。</p> <p>有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。</p> <p>※運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。</p>

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、公社債などの値動きの生じる証券(外貨建資産には為替リスクもあります。)に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- FTSE世界国債インデックス(除く日本・当社円換算ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックス、FTSE世界国債インデックス(米ドルベース)をもとに、FTSE Fixed Income LLCの承諾を得たうえで、当社が独自に円換算したものです。

取扱い販売会社情報一覧表

※ 販売会社は今後変更となる場合、また、下記以外にもお取り扱いを行っている販売会社がある場合があります。
また、販売会社によっては、新規のお申し込みを停止している場合があります。
詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。

商号	登録番号等		日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品取引業協会	備考
	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第94号					
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	
JAバンク (JA/信連/農林中金)	お取り扱いについては、委託会社（農林中金全共連アセットマネジメント株式会社）までお問い合わせください。 (注) 一部のJAバンクでは、お取り扱いがない場合がございます。						

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

■ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ: <https://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル: 0120-439-244 (受付時間: 営業日の午前9時～午後5時)

お申し込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は販売会社へお申し出ください。